

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105473		
法人名	医療法人 昭和会		
事業所名	昭和会病院 グループホーム新地		
所在地	〒850-0842 長崎市新地町6番3号		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyoSyCd=4270105473-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyoSyCd=4270105473-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成26年12月17日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周りには、湊公園や中華街、出島、水辺の森公園などがあり、四季折々の長崎の行事を楽しめる環境に恵まれています。ランタン祭、おくんち、こどもくんち、中秋節祭などにおいては、目の前の湊公園で繰り広げられます。天気の良い時は、水辺の森公園で帆船祭を見物したり、稲佐山にドライブに出かけたり、時には美術館まで散歩することもあり、外出する楽しみも増えてくと思います。看護師も非常勤で勤務しております。施設での介護計画は、介護支援専門員が担当しております。看護師、社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士などの多職種で、入居者の方の支援をさせて頂いております。日々の暮らしを楽しく、穏やかに暮らせるように常日頃から自己研鑽に努め切磋琢磨している事業所です。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎市の観光スポットが点在する賑やかなエリアに位置する「グループホーム新地」は、すぐ近くに路面電車の停留場やバス停があるなど、交通アクセスの大変良い場所にあります。ホームはビル(鉄筋コンクリート)の2・3階部分にあり、1階には同一法人が運営されているデイサービスが入っています。2階のリビングの窓やベランダからは、祭りや様々なイベントを見物することができ、利用者は街中ならではの生活を楽しまれています。また、近くには母体である病院もあり、医師・看護師との連携はもちろん、理学療養士や言語聴覚士などからの専門的なアドバイスなども受けることが出来ます。利用者が安全で健康的な毎日を送れるように、法人全体でバックアップする体制が整っているホームであることも特徴の一つと言えます。

「利用者本位」のサービスについては職員全員が真摯に考え、利用者一人ひとりの希望に添う“その人らしい暮らし”の実現のために、意見を出し合いながら日々のケアに取り組まれています。管理者と職員は互いに信頼し合いながら、理念に沿ったサービスの提供に努められており、チームワークの良さがホームの家庭的な雰囲気と暖かいサービスに繋がっているようです。

終末期ケアにおいては、家族にも居室に泊まって頂けるように配慮され、家族での大切な時間をサポートしつつ、利用者本人だけではなく家族の精神面についても側面から支援されていることが伝わってきます。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を具体化し、朝礼などで唱和する事で職員全員が理念を共有して介護に携わる事が出来ている。	開設当時から掲げられている理念を大切にしつつ、職員間でケアの指針について話し合い、理念をまとめた言葉が作られています。朝礼での唱和や、ネームカードの裏への記載など、周知に向けた積極的な姿勢から、理念に沿った支援に努められていることをうかがい知ることが出来ます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の組長を務めている。また、掃除や買い物、散歩等の時に、お互いに挨拶をしたり、近所の薬局で処方依頼したりと地域との繋がりを深める努力をしている。	オフィスビルや商店、マンションなどに囲まれた環境の中でも地域との繋がりを持つと努め、様々な取り組みが行われています。地域向けのグループホーム便りの発行や、小・中学校への交流の声掛けなど、積極的な取組が展開されていると言えます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌などで、認知症、感染症予防、防火に関する情報を掲載している。最近では、広報誌を読んで入所申し込みをされた方もおり、少しずつ地域の方に理解して頂けていると感じている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告の場だけではなく、家族や地域の方の意見や行政の助言など大変役に立つことが多く、施設で活かされることが多い。	運営推進会議は、地域の代表者や家族、行政担当者等が出席し、2か月に一度行われています。利用者もいるホームのリビングで開催されており、職員も会議の中で発言することが出来ます。家族も会議への出席に協力的で、交代で参加されています。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でも多くの助言を頂いているが、不明な点や新しい事を始める際には、必ず市に報告し助言を頂き、連携をとっている。	市の担当者には、些細な変更などについてもきちんと報告されています。また、何かわからないことがある時は、すぐに相談されており、協力体制が築かれています。社会福祉協議会からの紹介で、様々なボランティアの受入等も行われています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設での身体拘束は全て禁止としている。毎年研修会で事例検討を行い、お互いが拘束にについて理解できるようにしている。	ホームでは身体拘束を行わない方針です。安定剤もなるべく使用しない方針で、随時主治医と相談しながら薬などの調整も図られています。不穏や帰宅願望が出やすい利用者には見守りを強化し、話を傾聴しながら気持ちに寄り添うように努められています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研修以外にも、毎年外部の研修に参加し報告をしている。また、同事業所内にある事業所と「身体拘束や虐待について」の研修を行い、お互いが理解出来る様にまた指摘できる環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が参加できるよう研修会の案内を確実に行うようにしている。また、該当入居者家族へ話し合いを設けたり、相談所を紹介したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明や内容等、入居前に不明な点や疑問点について説明を行い、不安をなくし安心して入居出来る様に支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回の満足度調査を通して意見や要望を確認している。また、家族会や行事参加などの時にも、ご家族の意見を伺い、運営に反映させている。	毎年、行事や防災関係などテーマを決めて無記名アンケートが実施されています。家族が要望を出しやすい機会を設けることで、より良いサービスが行えるよう努められています。家族の面会時にも利用者の状況説明を行い、意見を伺うようにされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や定例会議、カンファレンスに管理者も出席して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、施設運営に反映させている。	年に一度の管理者と主任による職員の個人面談により、意見や要望の把握に努められています。毎月の職員会議や面談以外にも、個人的な相談は随時受けられています。職員の希望に応じるように、組織内で努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者と連絡を取っており、定期的な面談(1年に1回は、職員との面談)を行い、業務以外の個人的内容も確認し、必要時には解決出来るように助言や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者をはじめ職員一人一人に研修を受ける機会を設けている。また、母体での研修会開催時は施設職員も受講できるように時間の配慮など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流できるように連絡協議会の参加や研修会など参加する機会を与えている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、自宅や施設、病院等に出向き、ご本人と再度アセスメントを行い、その中で困っていることや不安なこと、要望等を傾聴しながら、説明や確認を行い、安心して生活出来る様に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時より、傾聴する事に努めている。入所前に自宅や施設、病院に出向き、ご家族が不安に思う事や困っていること、要望などを受け止め、説明や確認を行いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医や介護支援専門員、地域連携室、医療連携室、包括支援センター等からの意見を頂き、必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々とのコミュニケーションが取れる様に、能力に合わせて洗濯、掃除、台拭き、おやつ作り、手作業などを一緒に行いながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した際には、本人とゆっくりとした時間を過ごせるように、自室で対応している。また、本人の近況報告など、職員から家族に声をかけるように心がけ、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時、主治医など変更せず継続出来る様になっている。また、本人が馴染みのある場所を散歩したり、買い物に出かけたりしている。	入居前の自宅を拝見することにより、生活環境を把握し、利用者の居心地良い生活の継続に繋がられています。友人や知人などがホームを気軽に訪れられるような雰囲気作りにも努められ、電話や年賀状などの支援も行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が情報の共有を行い、一人ひとりが孤立しないように席を調整したり、声かけを行ったりしている。また仲の良い入居者同士が、一緒にソファに座り会話を楽しめる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院、入所先の面会に出かけたり、手紙など送ったりしている。また、退所された入居者家族より、他の入居希望者を紹介されたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前より意向や希望の把握に努め、好きな事や出来る事を確認している。食事の好き嫌いや食事希望・おやつ選択・衣服の選択・外出先の希望など、その都度確認し、一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握が出来る様に努めている。	日頃の本人や家族との会話の中で、利用者の好むスタイルや嗜好品などの把握に努め、個々の意向に添うようなサービスや食事などが提供出来るよう心がけられています。意思表示が難しい利用者などには、表情や仕草から気持ちを読み取るように努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の自宅状況や暮らし方を把握して、生活歴や生活環境、これまでのサービス利用経過などの把握に努めている。また、馴染みの環境(人・物)を少しでも継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所直後より、ご本人の生活パターンや心身の状態、有する能力の把握を行い、介護支援経過記録や排泄パターンなどの情報を収集し、職員が共有する。アセスメントの実施。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントの実施後、生活の質を考え、ご本人が望む暮らしに近づく事が出来るように、介護支援専門員をはじめ職員、主治医、看護師等の意見を踏まえて、計画を作り上げていく。また、計画開始時は家族を含めてケア会議を実施する。	ホームでは担当制が採られており、利用者の毎日の生活を細かに観察されています。担当者が1ヶ月毎にケアプランの評価を行い、3ヵ月毎に介護支援専門員による評価が行われています。ケアプラン更新時には、家族や本人の意見を伺った上で、全職員での話し合いが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実施を行い、その結果や気づき等を記録し、介護支援専門員、看護職員、介護職員が情報共有できるようにしている。月に1回、介護支援専門員や居室担当者により、モニタリングを行い家族へ説明し、必要時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに対応してサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される、ランタン祭、おくんち、中秋節祭等を見物したり、市民大清掃に参加したりして、地域の方との触れ合いを支援している。また、施設内にある通所介護事業所での行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医に関しては、継続して頂ける様にしている。また、入居時より看取り希望者に関しては、在宅医療を行っている医師を紹介し、入所前の主治医と連携が取れる様に支援している。	本人や家族の希望が尊重され、かかりつけ医の継続も可能とされています。かかりつけ医を受診する際には、ホームの看護師から看護記録に基づく報告書が渡されています。内科をはじめ、眼科・歯科など、各医療機関とは、連絡を密にし、連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に看護師への報告を行い、日常生活での異常の早期発見に努めている。また、夜間でも看護師といつでも連絡が取れる体制で、相談や助言が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院後などお互いが情報交換を行っている。また、入院時に看護師などが付き添ったり、後に病院関係者に相談したりして、早期退院出来る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看護師が、重度化についての指針や終末期についての説明を行っている。終末期に関しては、マニュアルに従い、主治医と相談しながら実施していく。	ホームでは、看取りが行なわれており、関係書類も整えられています。利用開始時のみならず、利用者の状況変化に応じた家族への十分な説明も行われ、意向についても確認されています。終末期は、一週間毎にカンファレンスが行われ、利用者や家族のケアに努められています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急マニュアルに沿って実施している。また、マニュアルはいつでも閲覧できる場所に保管している。年に1回の救急蘇生法などの研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火防災のマニュアルを作成し、避難経路や避難場所を廊下に掲示している。また、月に1回以上は避難訓練や避難方法等の研修を行っており、いざとなった時に慌てないように日頃から訓練を実施している。また、近隣のグループホームや消防団とも交流を深めている。	避難訓練は色々な場所からの出火を想定して行われています。また、利用者の身体状況が変化していることを踏まえ、避難方法も毎回検討されています。緊急時には、通報ボタンで、消防署や職員へ連絡が届く仕組みとなっており、民間の警備会社とも契約されています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して、目上の方に対する対応や言葉使いしている。また、排泄や入浴時等はプライバシーに特に注意して実施している。排泄チェック表やファイル等、来客者などの他人から見られないように工夫している。	利用者には調理の手伝いや洗濯物たたみなど、得意なことや出来ることを生かした役割りを担って頂き、日々の暮らしの中で、生きがいに繋がるよう支援されています。日中の生活は、リビングで歌や貼り絵を楽しんだり、自室で休んだり、自分の好きなことを自由に楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おくんちでのお賽銭や買い物、誕生ケーキの種類、行事食や希望食、衣服選び、散歩や外出場所、作業内容など自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態や希望に応じて、食事、睡眠、午睡、休憩、トイレ等支援している。また、外出する際も、本人の希望により支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、洋服選び髪留めなど、ご本人の希望を取り入れ選んでいる。また、外出時の帽子やスカーフ、上着なども自分で選んでいる。行事の際は、お化粧品等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に応じて、行事食やおやつ等職員と一緒に作ったり、片づけたりしている。誕生日には、ケーキに限らず好きな物を考え作ったりもする。	おせち料理やそうめん流し、スイカ割り、鉄板で焼くお好み焼きなど、工夫を凝らした「食」が提供され、「食」においても利用者に季節感を味わって頂けるよう努められています。ベランダのプランターでは、ゴーヤやトマトなどの野菜が栽培され、旬の捕れたて野菜を楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は、好みや体調により変化があるが、タンパク質やビタミンなど不足しないように、乳製品や果物などおやつに取り入れ提供している。また、お茶の時間を設けるなど、水分補給に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを洗面所にて毎食後、本人の能力に応じて介助している。また、定期的にポリデント等の洗浄液につけて清潔にしている。必要時は、訪問歯科診療を受け治療を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握する事で昼間は布パンツ着用での対応を行っている。出来るだけ、夜間も継続していくため、時間おきにポータブルトイレの誘導を実施している。	周囲に配慮しながら、タイミングよい言葉かけによるトイレ誘導に努められ、排泄の自立支援に取り組まれています。その取組は、利用者の自信にも繋がっているようです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や水分補給を行っている。また、食後にトイレを促したり、腹部マッサージを行ったり、繊維の多いおやつを提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日以外にも、発汗や失禁、皮膚掻痒感がある時等、入浴や清拭等の対応をしている。冬場はゆず湯等、楽しみながら入浴が出来るように工夫している。	入浴の曜日は定められており、個人のプライバシーに配慮した入浴支援が行われています。浴室にはエアコンが設置されており、温度差を無くした安全な入浴に努められています。菖蒲湯や柚子湯など季節のお湯を楽しむ機会が設けられ、気分転換に入浴剤も使用されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は、本人の生活習慣やその時の状態で希望に応じて、リビングや居室で休憩をとっている。ソファや畳で他の入居者と一緒に休んだり、テレビを見ながら談笑している。夜間は、思い思いにラジオやテレビなど見たい番組を見ながら楽しまれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り時に、変更や継続があった薬の報告を行っている。台所には、一人ひとりの服薬の目的や副作用、用法や用量について記載してあるファイルがあり、いつでも誰もが確認出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々のアセスメントの中で、本人が好きで継続出来る様に支援している。外出が好き、魚の缶詰が好き、パンが好き、コーヒーが好き、縫物が好き、折り紙が好き等、それぞれが得意な事や好きな事を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ランタンやおくち、紫陽花散策、帆船まつり、水辺の公園散歩、買い物等、その日の状態や気分に応じて、職員と一緒に外出する。また、家族の面会時に公園など散歩されている。	近くに港や公園があり、日常的に散歩やドライブを楽しんでいます。また、近隣で大きな祭りなどが開催されるため、気軽に見物などにも出掛けられています。その他、職員と共に近所へ回覧板を持って行ったり、近くのスーパーへ買い物へ行ったりと、様々な外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	初詣やおくち等の外出時は、小遣いを持ち、お賽銭や好きなものなど購入する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話があった際に、電話を替わり会話を楽しんでいます。また、お正月など家族あてに年賀状を書いて、季節感や家族との絆を大切に感じられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるように、その季節の花々を一緒に生けたり、毎月のカレンダーをその季節に合わせて一緒に作成している。ベランダには、トマトやゴーヤ等作り収穫したり、草花を植え、作る喜び見る喜び食べる楽しみを味わっている。	リビング兼ダイニングは、利用者が常に集まる居心地の良い空間になっています。季節の花や利用者のコラージュ作品などが飾られ、暖かい雰囲気を感じられます。小上がりの畳スペースには布団も置かれ、昼寝などに利用されています。温度・湿度の管理にも配慮されています。	病院を改装し開設したホームは、構造上の制約もある中で随所に工夫が凝らされています。しかし、更なる取組の余地も見受けられますので、様々な可能性を検討し、更なる工夫を重ねられることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋に戻ってゆっくりしたり、みんなと一緒にソファや畳で休憩したりしている。一人一人が居心地良く過ごせるように、席の配置も替えるなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物を持参してもらっている。箆笥やテーブル、椅子、置物、写真など、本人が思入れのある物を準備してもらっている。	各居室には洗面台が備え付けられており、御位牌やソファ、こたつなど馴染み深いものが持ち込まれ、本人が生活しやすい居室づくりに努められています。入居前には、持ち込み品などについての家族からの相談にも応じられ、レイアウトの手伝いもされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりをつけ一人で歩行出来る様にした り、トイレのドアがわかりやすいように色を工夫して いる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			